

保護者の電磁波シールド

## 市教委が寄付保留

問題  
基地  
携帯

太宰府市「議会待って判断」

太宰府市青山の太宰府議会は30日の特別委員会議事では、東小学校の保護者が、携帯電話中継基地局からの電磁波を防ぐシールドを学校に寄付しようとしたところ、市教委がいったん寄付を了解しながら、「保留」に判断を変えたことが分かった。関敏治教育長は27日、保護者との協議で「基地局問題に関する市と議会の議論がまとまっていなかったため」と理由を説明した。

太宰府市議会は昨年12月、議員提案した基地局の紛争防止条例案を可決したが、井上保広市長が審議のやり直しを求める再議に付した。市

小学校と基地局の距離は100メートル程度。保護者が寄付を申し出たシールドは無色透明で、窓ガラスに張って使うという。市教委は昨年12月に寄付を了解したが、今月17日になって「市長部局との協議の結果」として保留を決めた。

関教育長は保護者に対して「30日の特別委を待って判断したい」と述べたが、同席した市議は「市が子どもを人質にとった形で、議会の議論に影響する」と反発した。